相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録(3) - 相生市三濃山麓の蛾 2020 - 2023 -

高橋弘樹 1)

はじめに

筆者が 2020 年 11 月以降,相生市三濃山の山麓にある「羅漢の里」公園 (兵庫県相生市矢野町瓜生)で行っている蛾類調査の結果については『相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録』(1),(2)として本誌45(2)及び46(1)(髙橋,2022a:2023a)で発表したが、今回は第2報以降に新たに確認・同定できた種について報告するとともに、高島昭氏が1989年から1997年にかけて報告した内容(高島,1996;1998;1999;2001)との比較・考察を行う.

掲載した記録の採集場所と採集・撮影者は全て当公園内かつ筆者であるため省略した. 種名の前には当地での確認リストとして便宜的に番号を付し, 高島氏が上記で報告している種は学名の右に○を付すとともに, 科名の右の括弧内に種数を記した.

各種資料

情報の更新

これまで外見での識別が困難なものは属までの同定として報告してきたが、交尾器の構造を観察できる環境が整ったので改めて採集して検鏡した。その結果、第1報で報告した Tridrepana 属の一種 (カギバガ科)、Lithosia 属の一種 (ヒトリガ科)、Sypnoides 属の一種 (ヤガ科)、第2報で報告した Miyakea 属の一種 (ツトガ科)、Manoba 属の一種 (コブガ科) については種まで同定できたため、これらの記録を一旦削除し、下記と差し替える。第1報で報告した Gelastocera 属の一種 (コブガ科)についても再検討した結果、同様に差し替えることとする。また、第2報でアオシャク亜科の一種として報告した種が新種記載されたため種名を更新する。

ツトガ科 < ツトガ亜科 >

1. ニセソトモンツトガ Miyakea consimilis (図 1)

 $1\ \ensuremath{\nearrow}$, 7. VI . 2023.

ソトモンツトガとの大きさ, 色彩, 斑紋による区別は困難であるが, ♂♀交尾器の形態で明瞭に同定可能で, ♂交尾器では

バルバのコスタ基部にあるバルバとほぼ同長のくちばし状の付属物に針状突起を持たないこと, コルヌツスがより小さいことなどで区別できる (那須ほか, 2013).

カギバガ科 < カギバガ亜科 >

4. ヒメウコンカギバ Tridrepana unispina (図 2)

ウコンカギバとの外観での区別は困難であるが、♂交尾器のグナトス中央の骨化部から出る突起が細いこと、アネルスの棒状突起は全体に細く、尾端部はウコンカギバでは幅広くなり二叉するが、本種では先細りとなること、♀交尾器のパピラ・アナレスの形状が異なることなどで区別できる(岸田,2012a).当地では後述のとおりウコンカギバも確認しており、2023年6月に検鏡した個体は全てウコンカギバ、同年8月1日~10日に検鏡した11個体は全て本種で、8月23日には両種各1♂、9月5日には両種各2♂を確認した.

シャクガ科 <アオシャク亜科 >

131. ハラシロモンアオシャク Jodis albiguttata

1ex., 6. IV . 2021.(再掲)

本種は第2報発表時点では未記載種であったため、アオシャク亜科の一種 Geometrinae sp. として扱ったが、2023 年 10 月 20 日に金子 (2023) により新種記載された. ♂の触角は根元が両櫛歯状で先端 1/4 は糸状. ♀の触角は糸状で、前翅外縁がやや丸みを帯びるが、撮影した画像では判然とせず、交尾器も確認していないため性別は不明のままとした. 上記新種記載論文での分布情報は本州(愛知県、三重県)、四国(高知県)となっており、4、6、7 月に得られていることから年 2 化以上している可能性があることと、春先に採れた個体より盛夏に採れた個体の方が明らかに小さいことが指摘されている.

ヒトリガ科 <コケガ亜科 >

4. ウンナンヨツボシホソバ Lithosia yuennanensis (図 3)

¹⁾ Hiroki TAKAHASHI 兵庫県相生市

1 \varnothing , 16. VI . 2023. ; 1 \varnothing , 21. VI . 2023. ; 1 \varnothing , 22. IX . 2023. ; 1 \varnothing , 25. IX . 2023.

2011年にヨツボシホソバとの混在が報告された種で、外見ではヨツボシホソバと区別できないとされるが、♂交尾器のサックルスアームの先端が前上方へ向かい尖る、ウンクスが細いなどの違いがあり、♀交尾器の形状も大きく異なる(宮野、2011:岸田、2011c). 宮野(2013)によると本県の周辺では和歌山県、香川県、徳島県等での産出が報告されており、産地の標高は香川県で50~900m、徳島県で100~1100mとなっている。本県での記録は見つけられなかったが広く分布しているものと思われる。当地では後述のとおりヨツボシホソバも確認できた。

コブガ科 < コブガ亜科 >

23. ヨシノコブガ Manoba melancholica (図 4)

1 & , 12. VI . 2023. ; 1 & , 27. VII . 2023. ; 1 & , 21. VII . 2023. ; 2 & , 5. IX . 2023. ; 2 $\upred{?}$, 22. IX . 2023.

外見でのシロフチビコブガとの区別は困難であるが, 交尾

器の形ははっきり異なる.本種の♂はバルバの先端が角張り、ハルペは太く内側に湾曲し、エデアグスの先端から生ずる針状物は後方に向かったのちに U 字型に反転し枝を出す (岸田、2011b). 筆者は 4 月上中旬に本種と思われる種を 30 頭以上検鏡したが全て♀で、この時期にはまだ♀交尾器の構造を理解できていなかったためシロフチビコケガと区別できなかった.その後 4 月下旬には姿を消したが 6 月に少数が再出現し、9 月に入ると再び数を増した.

<リンガ亜科>

12. クロオビリンガ Gelastocera kotschubeji ○ (図 5)

 $1\ \ ^{\circ}$, 10. VIII . 2023. ; 1 $\ \ ^{\circ}$, 5. IX . 2023. ; 1 $\ \ ^{\circ}$, 23. IX . 2023. ; 1 $\ \ ^{\circ}$, 5. X . 2023.

アカオビリンガに似るが前翅は赤みが弱く,中央は黒紫色を帯び,後翅は淡色である。両種の♂交尾器はほとんど差異が無い(岸田,2011b). 時々灯火に飛来した.

ヤガ科 < シタバガ亜科 >



図1ニセソトモンツトガ♂と交尾器



図2ヒメウコンカギバ♂と交尾器(左、中),ウコンカギバ♂交尾器(右)



図3ウンナンヨツボシホソバ♂交尾器(左)とヨツボシホソバ♂交尾器(右)



図4ヨシノコブガ♂と交尾器



図5クロシラフクチバ♂と交尾器



図 6 クロオビリンガ 2023.8.14 撮影

92. クロシラフクチバ Sypnoides fumosus ○ (図 6)

1 ♂, 30. V. 2023.

シラフクチバと酷似するが、本種は♂交尾器のウンクスの 背面に先端が2つに分かれた鋭い小突起があり、ソキウスは 短く幅広で、背面に骨化した稜が走ることで区別できる(岸田、 2011b). 当地では後述のとおりシラフクチバも確認できた.

第2報以降に確認、同定できた種 ヒロズコガ科 (0)

< オオヒロズコガ亜科 >

2. アトモンヒロズコガ Morophaga bucephala 1ex., 11. VII. 2023.

< フサクチヒロズコガ亜科 >

3. マダラマルハヒロズコガ *Ippa conspersa* 1ex., 22. Ⅶ . 2023. ; 1 ♀ , 2. Ⅷ . 2023.

< ヒロズコガ亜科 >

- 4. アトキヒロズコガ *Monopis flavidorsalis* 1ex., 23. VIII. 2023.
- 5. マエモンクロヒロズコガ *Monopis pavlovskii* 1ex., 12. WI . 2023. ; 1ex., 23. IX . 2023. < ツマオレガ亜科 >
- 6. クロスジツマオレガ *Erechthias atririvis* 1ex. 23. VII. 2023.
- 7. ウスモンツマオレガ *Erechthias sphenoschista* 1ex., 9. VII. 2023.

<メンコガ亜科>

8. モトキメンコガ *Opogona thiadelpha* 1ex., 2. Ⅶ . 2023.

<ホソミヒロズコガ亜科>

9. シマヒロズコガ Autochthonus namhaensis 1ex., 7. Ⅷ, 2023.

< クシヒゲヒロズコガ亜科 >

10. クロクモヒロズコガ *Psecadioides aspersus* 1ex., 12. Ⅵ . 2023. ; 1ex., 19. Ⅵ . 2023. ; 1ex., 5. Ⅸ . 2023.

ホソガ科 (0) < ホソガ亜科 >

1. シラキハキリホソガ *Caloptilia sapiivora* 1 ♀ , 16. Ⅷ . 2023.

スガ科 (0) < スガ亜科 >

2. マルギンバネスガ Thecobathra anas

1ex., 1. $\forall I$. 2023. ; 1ex., 4. $\forall II$. 2023. ; 1ex., 14. $\forall II$. 2023. ; 1ex., 20. iX . 2023.

<ツバメスガ亜科>

3. アセビツバメスガ Saridoscelis kodamai

1ex., 26. V . 2023. ; 1 $\stackrel{\circ}{+}$, 14. VI . 2023. 1 $\stackrel{\circ}{+}$, 13. VII . 2023.

クチブサガ科 (0)

3. キイロクチブサガ *Ypsolopha flava* 1ex., 4. VI . 2023.

ヒラタマルハキバガ科 (0)

3. モンシロヒラタマルハキバガ Agonopterix costaemaculella 1ex., 13. VI . 2023.

ヒロバキバガ科 (0)

1. ツガヒロバキバガ *Metathrinca tsugensis* 1ex., 14. VI . 2023.; 1ex., 12. VI . 2023.

マルハキバガ科 (0) <マルハキバガ亜科 >

- 3. ニセコクマルハキバガ *Martyringa ussuriella* 1 ♂, 15. VI. 2023.; 1 ♀, 20. VI. 2023.; 1 ♂, 29. VI. 2023.
- 4. ヤシャブシキホリマルハキバガ *Casmara agronoma* 1ex., 24. VII . 2023.
- 5. シロスジカバマルハキバガ *Promalactis suzukiella* 1 ♀, 13. IX . 2023.
- 6. カレハチビマルハキバガ *Tyrolimnas anthraconesa* 1ex., 12. VII . 2023.; 1ex., 29. VIII . 2023.

ヒゲナガキバガ科 (0) <ハビロキバガ亜科 >

- 4. ゴマフシロハビロキバガ Scythropiodes leucostola 1ex., 9. VI . 2023.; 1ex., 28. VI . 2023.; 1ex., 25. VII . 2023.
- 5. ムモンハビロキバガ Scythropiodes lividula 1ex., 3. Ⅵ . 2023.
- 6. フタテンハビロキバガ Scythropiodes malivora 1ex., 3. № . 2023.
- 7. カクバネゴマフシロハビロキバガ *Scythropiodes* sp. 1ex., 19. Ⅶ . 2023.

<オビヒゲナガキバガ亜科 >

8. コゲチャヒゲナガキバガ Halolaguna sublaxata 1ex., 26. VI. 2023.

< ホソバヒゲナガキバガ亜科 >

- 9. フタテンホソバヒゲナガキバガ *Lecithocera cerussata* 1 ♂ , 4. \lambda . 2023.
- 10. ヒメフタテンホソバヒゲナガキバガ Lecithocera tridentata

1 ♂ , 4. WII . 2023.

11. キベリハイヒゲナガキバガ Homaloxestis myeloxesta 1 ♀, 3. X . 2023.

ニセマイコガ科 (0)

1. ヒメムラサキシキブマイコガ Stathmopoda gemmiconsuta

1ex., 26. V . 2023.

2. オビマイコガ Stathmopoda opticaspis 1ex., 4. Ⅷ. 2023.

ミツボシキバガ科 (0)

- 1. ヒロバミツボシキバガ Autosticha imitativa 1 ♂, 12. Ⅷ. 2023.
- 2. エンジュミツボシキバガ *Autosticha truncicola* 1 ♂, 5. VII. 2023.
- 3. クロボシミツボシキバガ Semnolocha pachysticta 1ex., 22. VII. 2023.

エグリキバガ科 (0)

1. ネズミエグリキバガ *Acria ceramitis* 1ex., 19, № 2023.; 1ex., 5. IX . 2023.; 1ex. 18. X . 2023.

カザリバガ科 (0) <マイコモドキ亜科 >

- 1. ベニモントガリホソガ *Labdia semicoccinea* 1ex., 8. WI. 2023.; 1ex., 16. WI. 2023.
- 2. オオツマキトガリホソガ *Labdia bicolorella* 1ex., 18. VII . 2023.; 1ex., 15. IX . 2023.
- 3. コブヒゲトガリホソガ *Labdia antennella* 1ex. 4. Ⅷ. 2023.

キバガ科 (0) < モンキバガ亜科 >

- 6. ニセナラクロオビキバガ *Pseudotelphusa pekunensis* 1 ♂,11. VII. 2023.
- 7. ウバメガシハマキキバガ *Concubina trigonalis* 1 ♂, 16. VIII. 2023.

<フサキバガ亜科>

- 8. モンフサキバガ Dichomeris harmonias 1ex., 20. IX . 2023.
- 9. ムモンフサキバガ Dichomeris tostella 1ex., 5. Ⅷ. 2023.
- 10. クルミオオフサキバガ Dichomeris christophi 1 ♂ , 19. X . 2023.
- 11. センダンキバガ *Paralida triannulata* 1ex., 5. Ⅷ. 2023.
- 12. チャマダラノコメキバガ *Hypatima teramotoi* 1ex., 9. Ⅷ. 2023.; 1ex., 25. Ⅷ. 2023.

イラガ科 (5)

- 11. カギバイラガ *Heterogenea asella* 1 ♂, 22. VI. 2023.
- 12. ウストビイラガ *Ceratonema sericeum* 1ex., 22. Ⅷ. 2023.

ハマキガ科 (10) <ハマキガ亜科 >

- 25. ブドウホソハマキ Eupoecilia ambiguella 1ex., 5. IX . 2023.
- 26, アカオビホソハマキ *Eupoecilia kobeana* 1ex., 9. VII. 2023.; 1ex., 9. VIII. 2023.; 1ex., 16. IX . 2023.
- 27. トビモンハマキ *Gnorismoneura mesotoma* $1 \stackrel{?}{\rightarrow} , 5. \text{ VI} . 2023.$
- 28. マツアトキハマキ *Archips oporana* 1 ♂, 23. VI. 2023.
- 29. ミダレカクモンハマキ *Archips fuscocupreana* \bigcirc 1 $\stackrel{\circ}{_{+}}$, 13. VI . 2023.
- 30. リンゴオオハマキ *Choristoneura adumbratana* 1 ♂, 22. VII. 2023.
- 31. アトボシハマキ *Choristoneura longicellana* 1 ♂ , 5. IX . 2023.
- 32. コホソスジハマキ *Neocalyptis angustilineata* 1ex., 2. WI . 2023. ; 1ex., 7. WI . 2023. ; 1ex., 1. X . 2023. < ヒメハマキガ亜科 >
- 33. ヘリオビヒメハマキ *Cryptaspasma marginifasciata* (図7) 1 ♂, 13. VI . 2023.; 1 ♂, 15. VI . 2023.; 1 ♂, 20. IX . 2023.; 2 ♂, 25. IX . 2023.; 1 ♂, 16. X . 2023.

国内に分布する Cryptaspasma 属はヘリオビヒメハマキが 2種, サンカクモンヒメハマキが 4種に分かれ, ハラブトヒメハマキと合わせて 7種となったが, 本種は 3後翅に基毛叢を欠き, 1A+2A 脈基部に鱗粉が詰まった小さな楕円形のポケットを持つことでホソバヘリオビヒメハマキ以外の種と, 3 交尾器のククルスが長卵型であることでホソバヘリオビヒメハマキと区別できる (那須, 2022). 2023 年 $9\sim10$ 月には本属の個体が連日灯火に飛来し, そのうち 31 頭を検鏡したが 26 頭は %で, 交尾器は那須 (2022) に本種として図示されたものに似ている個体が多かった。しかし那須には同一地域で同じ時期に採集された雌雄を同種として扱っていることと,雌雄の正確な対



図7ヘリオビヒメハマキ♂と交尾器(ククルス)

応付けには今後の検討を要することが記されており、本属には ♀が未知の種も存在することから、今回の報告にあたっては慎 重を期して♀の同定は保留としておきたい。なお検鏡しなかっ た個体も♀ばかりであることから、本属または本種の♂は灯火 にはあまり誘引されないのかもしれない。また当地では3月~ 4月上旬にも本属の一種を頻繁に見かけたが、現時点では後翅 も交尾器も確認できていないため報告は差し控える。

34. ホソバヘリオビヒメハマキ *Cryptaspasma mirabilis* (図8) 1 ♂, 12. X . 2023.

外灯に飛来したものを採集した. 本種は那須 (2022) に日本新記録種として掲載された種で,前翅が細長く, ♂は後翅に前種へリオビヒメハマキと同様のポケットを持ち,ククルスは細長く先端がややとがる (那須,2022). 前種よりもやや小型である

- 35. シロテントガリバヒメハマキ *Bactra venosana* 1ex., 1. Ⅷ. 2023.; 1ex., 8. Ⅷ. 2023.; 1ex., 12. Ⅷ. 2023.
- 36. シロテンアカマダラヒメハマキ *Gatesclarkeana idia* 2exs., 19. VII. 2023.; 1ex., 15. IX. 2023.; 1ex., 18. X. 2023.
- 37. ツママルモンヒメハマキ *Eudemis brevisetosa* 1ex., 20. VI . 2023.
- 38. ツマベニヒメハマキ *Phaecasiophora roseana* 1ex., 23. VI . 2023.; 1ex., 30. VI . 2023.; 1ex., 23. VII . 2023.
- 39. キモンヒメハマキ *Statherotmantis pictana* 1ex., 4. X . 2023.
- 40. スネブトヒメハマキ *Phaecadophora fimbriata* 1 ♀ , 7. Ⅶ . 2023.
- 41. オオヤナギサザナミヒメハマキ Saliciphaga caesia 1ex., 1. IX . 2023.
- 42. ナカオビナミスジキヒメハマキ *Pseudohedya gradana* 1ex., 26. V . 2023.
- 43. ホソバチビヒメハマキ *Lobesia aeolopa* 1ex., 25. VII. 2023.; 1ex., 18. VII. 2023.
- 44. フタボシヒメハマキ *Ancylis selenana* 1ex., 5. № . 2023.
- 45. センダンヒメハマキ *Loboschiza koenigiana* 1ex., 17. VII . 2023. ; 2exs., 16. VII . 2023. 5exs., 18. IX . 2023.
- 46. ヒロオビヒメハマキ *Epinotia bicolor* 1ex., 4. IX . 2023.
- 47. シロマルモンヒメハマキ Zeiraphera demutata



図8ホソバヘリオビヒメハマキ♂と交尾器(ククルス)

1ex., 28. VI. 2023.

- 48. ヨモギネムシガ *Epiblema foenella* 1ex., 19. VII . 2023.; 1ex., 8. VII . 2023.; 1ex., 5. IX . 2023.
- 49. ツマキクロヒメハマキ Hendecaneura cervinum 1ex., 9. VI . 2023.
- 50. オオセシロヒメハマキ *Rhopobota ilexi* 1ex., 17. VIII. 2023.
- 51. アシブトヒメハマキ *Cryptophlebia ombrodelta* 1 ♂, 16. VII. 2023.; 1 ♀, 5. IX . 2023.
- 52. ヨツスジヒメシンクイ *Grapholita delineana* 1ex., 27. VI . 2023.
- 53. ヨツメヒメハマキ *Cydia danilevskyi* 1ex., 4. IX . 2023.
- 54. サンカクモンヒメハマキ *Cydia glandicolana* 1ex., 29. Ⅷ. 2023.; 5exs., 15. Ⅸ. 2023.; 1ex., 18. X. 2023.
- 55. シロツメモンヒメハマキ *Cydia amurensis* 1ex., 6. № . 2023.

トリバガ科 (0) <カマトリバガ亜科 >

- 3. オダマキトリバ *Amblyptilia punctidactyla* 1ex., 5. X . 2023.
- 4. ヨモギトリバ Hellinsia lienigianus 1ex., 20. IV . 2023.

マドガ科 (2) <マダラマドガ亜科 >

5. スギタニマドガ *Rhodoneura sugitanii* 1 ♂, 1. Ⅵ . 2023.; 1 ♂, 19. Ⅵ . 2023.

メイガ科 (12) <ツヅリガ亜科 >

- 19. ウスグロツヅリガ *Achroia innotata* 1ex., 9. VI . 2023.; 1ex., 16. VI . 2023.; 1ex., 12. IX . 2023.; 1ex., 3. X . 2023.
- 20. キイロツヅリガ *Tirathaba irrufatella* 1 ♀ , 6. Ⅵ . 2023. ; 1 ♂ , 12. Ⅶ . 2023.

<シマメイガ亜科>

- 21. ウスモンマルバシマメイガ Hypsopygia kawabei 1ex., 18. VII. 2023.
- 22. アカシマメイガ Herculia pelasgalis 1ex., 13. VII. 2023.
- 23. マエモンシマメイガ *Tegulifera bicoloralis* 1ex., 1. VI. 2023.; 1ex., 12. VI. 2023.
- 24. オオクシヒゲシマメイガ *Sacada fasciata* 1ex., 25. VI . 2023.
- 25. キベリトガリメイガ Endotricha minialis 1ex., 2. VI. 2023.

<フトメイガ亜科>

- 26. ナカムラサキフトメイガ *Lista ficki* 1ex., 15. VI . 2023.; 2exs., 21. VI . 2023.
- 27. コネアオフトメイガ *Lepidogma melanobasis* 1 ♀, 19. Ⅶ. 2023.
- 28. アカオビフトメイガ *Lepidogma tripartita* 1ex., 3. VII . 2023.; 1ex., 5. IX . 2023.
- 29. ハスジフトメイガ *Epilepia dentata* 1ex., 19. VII . 2023.
- 30. ナカトビフトメイガ *Orthaga achatina* 1ex., 24. VII . 2023.
- 31. ネアオフトメイガ *Orthaga onerata* 2exs., 12. Ⅶ . 2023.

<マダラメイガ亜科>

- 32. ツツマダラメイガ *Acrobasis squalidella* 1ex., 11. VII. 2023.
- 33. オオアカオビマダラメイガ *Acrobasis frankella* 1ex., 27. Ⅵ. 2023. ; 2exs., 12. Ⅵ. 2023.
- 34. アカフマダラメイガ *Acrobasis ferruginella* 1ex., 5. № . 2023. ; 1ex., 5. № . 2023.
- 35. ギンマダラメイガ *Acrobasis rubrizonella* 1ex., 23. VI . 2023.; 1ex., 12. VII . 2023.
- 36. フタテンアカオビマダラメイガ *Conobathra tricolorella* 1ex.. 7. Ⅶ. 2023.
- 37. コフタグロマダラメイガ *Furcata pseudodichromella* 1ex., 16. VIII. 2023.
- 38. クシヒゲマダラメイガ *Mussidia pectinicornella* 1 ♀ , 4. Ⅵ . 2023.
- 39. ハイイロシロスジマダラメイガ *Actrix decolorella* 1ex., 19. VII . 2023.
- 40. ウスアカムラサキマダラメイガ *Addyme confusalis* 1ex., 19. Ⅶ . 2023.; 1ex., 19. Ⅷ . 2023.
- 41. ミカドマダラメイガ *Sciota mikadella* 1ex., 12. VII . 2023. 1ex., 19. VII . 2023.
- 42. マエジロギンマダラメイガ *Pseudacrobasis nankingella* 1ex., 12. VII. 2023.
- 43. サンカクマダラメイガ Nyctegretis triangulella 1ex., 2. IX . 2023.
- 44. マエジロホソマダラメイガ *Phycitodes subcretacella* 1ex., 19. VII. 2023.
- 45. オオマエジロホソメイガ Paraemmalocera gensanalis 1ex., 18. VI. 2023.

ツトガ科 (25) <ツトガ亜科 >

- 49. シロエグリツトガ *Glaucocharis exsectella* 1ex., 5. Ⅶ. 2023.; 1ex., 19. Ⅶ. 2023.; 1ex., 2. X . 2023.
- 50. クロスジツトガ Flavocrambus striatellus

1ex., 31. VII. 2023.; 1ex., 10. IX. 2023.; 1ex., 2. X. 2023.

51. ナガハマツトガ Platytes ornatella 1ex., 15. IX . 2023.

<ヤマメイガ亜科 >

52. キンバネヤマメイガ *Micraglossa aureata* 2exs., 19. VI. 2023.; 1ex., 18. IX. 2023.; 1ex., 27. IX. 2023.; 1ex., 6. X. 2023.

<オオメイガ亜科 >

53. キボシオオメイガ *Patissa fulvosparsa* ○ 1ex., 19. VI . 2023.; 1ex., 26. VI . 2023.

< ミズメイガ亜科 >

54. ヒメコミズメイガ *Parapoynx rectilinealis* (図 9) 1ex., 16. VII. 2023.; 1ex., 17. VII. 2023.

外灯付近に静止していたものを撮影した. 2 夜連続の発見だが離れた外灯であり、縁毛の状態から別個体であることは確実である. イネコミズメイガと似るが前翅の外横線白帯が直線状で後角に向かい、そこで後半部と途切れることと、後翅の外縁部の縁毛が小黒点状の模様となることで識別できる(那須ほか、2013). 全国的にもまれで、愛知県豊橋市、京都府、宮崎県延岡市、三重県、岩手県、滋賀県で採集されているだけである(愛知県、2020). 幼虫は水生で、既知産地の状況から明らかに貧栄養湿地に生育する植物に依存していると考えられる(愛知県、2020). 本県初記録と思われる.

- 55. ミサキコミズメイガ *Parapoynx moriutii* 1 ♂, 6. IX . 2023.
- 56. ゼニガサミズメイガ *Paracymoriza prodigalis* 1ex., 9. VI . 2023.; 1ex., 25. VI . 2023.; 1ex., 7. VI . 2023.
- 57. クロバミズメイガ *Paracymoriza nigra* 1ex., 12. VII. 2023.
- 58. キオビミズメイガ *Potamomusa midas* 1ex, 15. VI . 2023.; 1ex., 19. VI . 2023.; 1ex., 13. VI . 2023.
- 59. アトモンミズメイガ Nymphicula saigusai 2exs., 12. Ⅶ, 2023.

<モンメイガ亜科 >



図 9 ヒメコミズメイガ 2023.8.17 撮影

60. トビマダラモンメイガ *Trichophysetis rufoterminalis* 1ex., 5. VII. 2023.; 1ex., 16. IX . 2023.

< クルマメイガ亜科 >

61. ウスムラサキクルマメイガ Clupeosoma cinerea 1ex., 11. VII. 2023.

<ノメイガ亜科>

- 62. セスジノメイガ *Torulisquama evenoralis* 1 ♀ , 19. VI . 2023.
- 63. キムジノメイガ *Prodasycnemis inornata* 1 ♂, 28. WI. 2023.; 1 ♂, 28. IX. 2023.
- 64. ミカエリソウノメイガ *Pronomis delicatalis* 1 ♂, 20. Ⅵ. 2023.
- 65. ヘリジロキンノメイガ *Paliga auratalis* 1 ♂, 28. Ⅷ. 2023.
- 66. マエウスモンキノメイガ *Paliga ochrealis* 1ex., 21. IX . 2022.
- 67. ウスオビクロチビノメイガ *Pyrausta fuliginata* 1 ♀ , 4. Ⅵ . 2023. ; 1 ♀ , 22. Ⅵ . 2023.
- 68. エグリノメイガ *Diplopseustis perieresalis* 1 ♀, 11. Ⅵ. 2023.
- 69. シロスジエグリノメイガ *Sufetula sunidesalis* 1 ♀ , 26. Ⅵ . 2023. ; 1 ♀ , 30. Ⅵ . 2023.
- 70. ヨスジノメイガ *Pagyda quadrilineata* 1 ♀ , 4. Ⅷ . 2023. ; 1ex., 26. Ⅷ . 2023. ; 1ex., 3. X . 2023.
- 71. オオシロモンノメイガ *Chabula telphusalis* 〇 1ex., 12. VII . 2023.; 2exs., 5. IX . 2023.
- 72. キボシノメイガ *Analthes insignis* 1 ♂, 4. VII. 2023.
- 73. イノウエノメイガ *Nacoleia inouei* 1ex., 6. Ⅷ . 2023.
- **74.** クロミスジシロノメイガ *Metoeca foedalis* 1 ♂ , 24. IX . 2023. ; 1 ♀ , 4. X . 2023.
- 75. ハイイロホソバノメイガ *Dolicharthria bruguieralis* 1ex., 3. VI. 2023.; 1ex., 13. VI. 2023.; 1ex., 11. IX . 2023.
- 76. ヒメクロミスジノメイガ *Omiodes miserus* 1 ♂, 14. VI . 2023.
- 77. クロヘリキノメイガ *Goniorhynchus butyrosus* 1 ♀ , 2. Ⅷ . 2023. ; 1 ♀ , 4. Ⅸ . 2023.
- 78. タイワンウスキノメイガ *Botyodes diniasalis* $1 \stackrel{?}{\circ}$, 15. IX . 2023. ; $1 \stackrel{?}{\circ}$, 23. IX . 2023.
- 79. オオツチイロノメイガ *Syllepte fuscoinvalidalis* 1ex., 12. VII . 2023.
- 80. スカシノメイガ *Glyphodes pryeri* 1 ♀ , 22. VII . 2023.
- 81. アカウスグロノメイガ *Bradina angustalis* 〇 1 ♂, 29. VI . 2023.; 3 ♂, 17. VII . 2023.
- 82. オオウスグロノメイガ *Bradina erilitoides* 2 ♂, 30. VI. 2023.; 1 ♂, 19. VII. 2023.; 1 ♂, 18. IX. 2023.

; 1 3, 2. X . 2023.

- 83. マエキノメイガ *Herpetogramma rude* 1 ♂ 1 ♀ , 5. IX . 2023.
- 84. ヒロバウスグロノメイガ *Paranacoleia lophophoralis* 1 ♀ , 5. Ⅷ . 2023. ; 1 ♂ , 25. Ⅸ . 2023. 5exs., 2. X . 2023.
- 85. モンシロルリノメイガ Uresiphita tricolor 1ex., 2. VI. 2023.
- 86. クロモンキノメイガ *Udea testacea* 1ex., 4. X . 2023.

カギバガ科 (16) < カギバガ亜科 >

- 24. オガサワラカギバ *Microblepsis acuminata* $1 \stackrel{?}{\circ}$, 14. \boxed{m} . 2023.
- 25. ウコンカギバ *Tridrepana crocea* 〇 1 ♂, 4. Ⅵ . 2023.; 1 ♂, 12. Ⅵ . 2023.; 1 ♂, 31. Ⅵ . 2023.; 2 ♂, 5. Ⅸ . 2023.

<トガリバガ亜科 >

26. オオバトガリバ *Tethea ampliata* 〇 1ex., 23. VI . 2023.

ツバメガ科 (1) <フタオガ亜科 >

- 3. クロフタオ *Epiplema styx* 1 ♀ , 12. Ⅵ . 2023. ; 1 ♀ , 5. Ⅸ . 2023. < ギンツバメガ亜科 >
- 4. ギンツバメ *Acropteris iphiata* 1ex., 10. VII . 2023.; 1ex., 12. VIII . 2023.; 1ex., 4. IX . 2023.; 1ex., 22. IX . 2023.

シャクガ科 (140) <エダシャク亜科 >

- 201. スギタニシロエダシャク *Abraxas flavisinuata* $1 \stackrel{?}{\circ} , 5. \mathbb{K} . 2023.$
- 202. ヒメマダラエダシャク *Abraxas niphonibia* 1 ♂, 14. VI. 2023.; 1 ♂, 28. VII. 2023.; 1 ♀, 16. IX. 2023. ; 1 ♂, 25. IX. 2023.
- 203. ユウマダラエダシャク *Abraxas miranda* 1 ♀, 24. V . 2023.; 1 ♂ 1 ♀, 28. V . 2023.; 1♀, 25. IX . 2023.
- **204.** ウスフタスジシロエダシャク *Lomographa subspersata* 1 ♂, 27. Ⅵ . 2023. ; 1 ♂, 30. Ⅵ . 2023.
- 205. オオフタスジシロエダシャク *Lomographa claripennis* 1 ♂, 7. VII. 2023.
- 206. フタスジオエダシャク *Rhynchobapta cervinaria* 1 ♂, 21. IX . 2023.
- 207. クロフキエダシャク *Monocerotesa lutearia* 1ex., 11. VI. 2023. 1ex., 27. VI. 2023.; 1ex., 10. IX. 2023.



図 10 ハラゲエダシャク 2023.4.20 採集

- 208. ヒロオビトンボエダシャク *Cystidia truncangulata* 1 ♂, 19. VI. 2023.
- **209**. シタクモエダシャク *Microcalicha sordida* 1 ♀ , 9. VI . 2023. ; 1 ♂ , 7. VII . 2023.
- 210. ハラゲエダシャク Diplurodes vestita (図 10)

1 \varnothing , 10. V . 2022. ; 1 $\overset{\circ}{+}$, 20. IV . 2023. ; 1 \varnothing , 1. VII . 2023. ; 1 \varnothing , 22. VIII . 2023.

外灯に飛来したものを採集した。2022年5月の個体は単体では本種と判断できない状態だったが2023年4月,7月の個体は採集時には極めて新鮮だった。岸田(2011a)によると国内分布は四国(高知),九州、屋久島となっており、屋久島では普通種だが九州本土では少ないとのことである。本県では神戸市(山口,2003)から報告されている。

- 211. チビトビスジエダシャク *Myrioblephara nanaria* 1 ♂, 9. VII . 2023.; 1 ♂, 12. VII . 2023.
- 212. ハンノトビスジエダシャク *Aethalura ignobilis* 1ex., 7. VII. 2023.
- 213. ヒロオビオオエダシャク *Xandrames dholaria* 1ex., 4. Ⅵ. 2023.; 1ex., 19. Ⅷ. 2023.
- 214. オイワケキエダシャク *Exangerona prattiaria* 1 ♂, 1. VI . 2023.
- 215. ウコンエダシャク *Corymica pryeri* 1 ♀, 24. IX. 2023.

<ホソシャク亜科>

216. エグリトガリシャク *Ozola japonica* (図 11) 1 ♂, 14. VI. 2023.

外灯に飛来したものを採集した. 日本固有種で本州,四国,九州,対馬,屋久島に分布し,本州では紀伊半島以西に産する(岸田,2011a). 本県での記録は見つけられなかった.

<アオシャク亜科 >

- 217. ヒメカギバアオシャク *Mixochlora vittata* 1 ♂, 13. X . 2023. ; 1 ♂, 15. X . 2023.
- 218. クロスジアオシャク *Geometra valida* 1ex., 21. IX . 2022.; 1ex., 5. VI . 2023.
- 219. ヒメシロフアオシャク *Eucyclodes infracta* 1ex., 19. VII . 2023.; 1ex., 4. VII . 2023.
- 220. ツバメアオシャク *Maxates ambigua* 1 ♂ , 30. Ⅵ . 2023. ; 1 ♀ , 27. Ⅵ . 2023.



図 11 エグリトガリシャク 2023.6.14 採集

- 221. キバラヒメアオシャク Hemithea aestivaria $1 \stackrel{?}{\circ}$, 18. VI. 2023.
- 222. ホソバハラアカアオシャク *Chlorissa anadema* 1 ♂, 30. VI. 2023.
- 223. ナミスジコアオシャク *Idiochlora ussuriaria* 1 ♂ , 4. VII . 2023. ; 1 ♀ , 9. VIII . 2023.
- 224. アカアシアオシャク *Culpinia diffusa* 1 ♀, 21. VII. 2023.; 1 ♀, 26. VII. 2023.
- 225. コシロスジアオシャク *Hemistola veneta* 1ex., 7. VI . 2023. ; 1 ♂, 4. VIII . 2023. ; 1 ♀, 22. IX . 2023. 〈ヒメシャク亜科〉
- 226. コベニスジヒメシャク *Timandra comptaria* 1 ♀, 25. Ⅵ . 2023.; 1 ♀, 6. Ⅶ . 2023.; 1 ♀, 4. Ⅸ . 2023.; 1 ♀. 24. Ⅸ . 2023.
- 227. クロモンウスチャヒメシャク *Perixera absconditaria* 1 ♀, 25. Ⅵ. 2023. ; 1 ♀, 25. Ⅵ. 2023.
- 228. ヒトツメオオシロヒメシャク *Problepsis superans* 1 ♀, 23. Ⅵ. 2023.; 2exs., 12. Ⅶ. 2023.
- 229. マエキヒメシャク *Scopula nigropunctata* 1 ♂, 9. VII. 2023.
- 230. タカオシロヒメシャク *Scopula takao* 1 ♂, 22. VII. 2023.
- 231. アメイロヒメシャク *Scopula tenuisocius* 1 ♂, 18. Ⅷ. 2023.
- 232. サザナミシロヒメシャク *Scopula nupta* 1 ♂, 9. VII . 2023. ; 1 ♂, 25. VII . 2023. ; 1 ♂, 2. VIII . 2023.
- 233. ウスサカハチヒメシャク Scopula semignobilis 1 ♂, 1. VII. 2023.
- 234. ウスキクロテンヒメシャク *Scopula ignobilis* 1 ♂, 26. Ⅵ . 2023. ; 1 ♂, 11. Ⅷ . 2023.
- 235. ナガサキヒメシャク *Scopula plumbearia* 1 ♀ , 24. Ⅵ . 2023.
- 236. ベニヒメシャク *Idaea muricata* 1 ♀ , 22. Ⅵ . 2023.
- 237. ウスクロテンヒメシャク *Idaea salutaria* 1ex., 16. VI. 2023.
- 238. ヨスジキヒメシャク *Idaea auricruda* 1ex., 12. VII. 2023.; 1ex., 5. VII. 2023.; 1ex., 25. VIII. 2023.



図 12 フリッツェホウジャク 2023.7.12 採集 (同一個体)

239. オオウスモンキヒメシャク *Idaea imbecilla* ○

1 \varnothing , 16. V . 2023.; 1 \varnothing , 17. VII . 2023.; 2 \varnothing , 2. VIII . 2023.; 1 \varnothing , , 16. IX . 2023.; 1 \varnothing , 20. X . 2023.

240. ウスキヒメシャク *Idaea biselata* 1 ♀ . 4. IX . 2023.

241. ミジンキヒメシャク *Idaea trisetata* 1 ♂, 13. VII. 2023.

242. サクライキヒメシャク *Idaea sakuraii* 1 ♂, 17. VII. 2023.

243. クロモンチビヒメシャク *Idaea crassipuncta* 1 ♀ , 13. Ⅶ . 2023.

<ナミシャク亜科 >

244. ウスミドリナミシャク *Episteira nigrilinearia* 1 ♂, 24. VII. 2023.

245. ムスジシロナミシャク *Asthena nymphaeata* 1 ♂ 1 ♀ , 13. IX . 2023.

カレハガ科 (2) <マツカレハ亜科 >

6. リンゴカレハ *Odonestis pruni* ○ 1 ♂ . 12. VI . 2023.

カイコガ科 (0)

2. クワコ *Bombyx mandarina* 1 ♂, 16. VII. 2023.

スズメガ科 (6)

<ホウジャク亜科>

22. フリッツェホウジャク *Macroglossum fritzei* (図 12) 1 ♂ . 12. Ⅵ . 2023.

ライトトラップに飛来したものを採集した. 本県では姫路市, 佐用町 (池田・阪上,2020; 髙橋, 2023b), 上郡町 (髙橋, 2022b) から報告されているのみである.

23. クロホウジャク *Macroglossum saga* 1 ♂ 1 ♀ , 23. Ⅵ . 2023.

シャチホコガ科 (20) <ツマアカシャチホコ亜科 >



図 13 カバイロモクメシャチホコ 2023.7.7 撮影

35. ヒナシャチホコ *Micromelalopha troglodyta* 2 ♀ , 5. IX . 2023.

< オオキシャチホコ亜科 >

36. カバイロモクメシャチホコ *Hupodonta corticalis* (図 13) 1 ♀ , 7. Ⅶ . 2023.

外灯に飛来したものを採集した. 高島 (1999) によると温帯性の種で、本県での分布は比較的内陸部の低山地から山地に限られ、瀬戸内側、但馬側とも沿岸部近くでは得られていない。 岡山県での記録も吉備高原以北(渡辺、1997) となっている.

< ギンモンシャチホコ亜科 >

37. キシャチホコ *Cutuza straminea* 1 ♀, 28. V . 2023. ; 1 ♂, 6. VI . 2023. ; 1 ♀, 9. VII . 2023. 〈ウチキシャチホコ亜科〉

38. ネスジシャチホコ *Fusadonta basilinea* \bigcirc 1 $\stackrel{\circ}{+}$, 13. \forall I . 2023. ; 1 $\stackrel{\circ}{\circ}$, 24. \forall I . 2023.

39. ナカキシャチホコ *Peridea gigantea* ○ 1ex., 18. VI . 2023.; 1ex., 24. VII . 2023.

ドクガ科 (11)

21. クロモンドクガ *Kuromondokuga niphonis* ○ 1 ♀, 16. Ⅸ . 2023.; 1 ♀, 18. Ⅸ . 2023.

ヒトリガ科 (22) <コケガ亜科 >

30. ホシホソバ *Pelosia muscerda* 1 ♂, 25. VII. 2023.; 1ex., 28. VIII. 2023.

31. キマエホソバ *Eilema japonica* 1 ♂, 20. VII. 2023.

32. ニセキマエホソバ *Eilema nankingica* 1 ♂, 22. VII. 2023.; 1 ♂, 26. IX. 2023.

33. ナガサキムジホソバ *Danielithosia immaculata* 1 ♂, 24. Ⅵ . 2023.; 1 ♂, 1. Ⅶ . 2023.; 1 ♂, 12. Ⅸ . 2023.; 1 ♂, 26. Ⅸ . 2023.

34. ヨツボシホソバ *Lithosia quadra* ○ (図 3) 1 ♂ , 19. Ⅵ , 2023.

♂交尾器のサックルスアームの先端が後方 (頭方) へ曲がって尖ること, ウンクスが太いことなどでウンナンヨツボシホソバと識別できる. ♀交尾器の形状も大きく異なる (宮野, 2011:岸田, 2011c). 本属の識別は筆や指先で腹端の毛を除去した上

でルーペやマクロ性能のよいデジカメ等で見ることにより,虫の生命を奪うことなく野外でも可能である.

35. ウスクロスジチビコケガ *Stictane obscura* 1ex., 20. VII . 2023.

36. クシナシホシオビコケガ Aemene takahashii (図 14) 1♀,19. VI. 2023.;1♂,27. VI. 2023.;1♂,14. VI. 2023. 2018 年に新種として発表された種で, 亜外縁の黒点列のうち M2 室のものが小さな 2 黒点であること, ♂の触角が櫛歯状ではなく, バルバの先端部が細く先端に棘状の突起を備えることなどで, かつて本種と同じくホシオビコケガとして扱われていたクシヒゲホシオビコケガと区別できる (岸田,2018). 当地では両種は混棲しておりどちらも普通に見られる. なお,第1報(髙橋,2022a)でクシヒゲホシオビコケガとして報告した記録のうち,2exs.,25. VII. 2022. は本種の誤同定の可能性があるので削除する.

37. クシヒゲコケガ *Thumatha ochracea* 1 ♂, 3. VII . 2023.; 1 ♂, 19. VIII . 2023.; 1 ♂, 1. IX . 2023.

38. ゴマダラベニコケガ *Barsine pulchra* ○ 1ex., 11. VI . 2023.

<ヒトリガ亜科>

- 39. シロヒトリ *Chionarctia nivea* 1 ♀ . 16. Ⅷ . 2023.
- 40. スジモンヒトリ *Spilarctia seriatopunctata* 〇 3exs., 5. IX . 2023.
- 41. カクモンヒトリ *Lemyra inaequalis* 1 ♀, 15. Ⅵ . 2023.

コブガ科 (10) <コブガ亜科 >

- 25. コマバシロコブガ *Nolathripa lactaria* 〇 1ex., 19. VI . 2023.; 1ex., 15. IX . 2023.; 1ex., 24. IX . 2023.
- 26. クロスジシロコブガ *Nola taeniata* 1ex., 15. IX . 2023.
- 27. ウスカバスジコブガ *Nola ebatoi* 1ex., 26. VI . 2023.
- 28. スミコブガ *Manoba banghaas* 1 ♂ . 24. Ⅷ . 2023.

<リンガ亜科>

29. ネスジキノカワガ *Garella ruficirra* 1ex., 20. IX . 2023.

<シロズリンガ亜科>

30. マエキリンガ *Iragaodes nobilis* 1ex., 23. Ⅵ . 2023. ; 2exs., 5. Ⅷ . 2023. ; 2exs., 16. Ⅷ . 2023. 〈ワタリンガ亜科〉

31. ベニモンアオリンガ *Earias roseifera* 1ex., 26. VI. 2023.



図 14 クシナシホシオビコケガ みと交尾器(上段) クシヒゲホシオビコケガ みと交尾器(下段)

ヤガ科 (117) <テンクロアツバ亜科 >

216. タケアツバ *Rivula aequalis* 1ex., 3. 畑. 2023.; 1ex., 3. X. 2023.

217. マエシロモンアツバ *Rivula curvifera* 1ex., 28. VII. 2023.; 1ex., 4. IX. 2023.; 1ex., 19. IX. 2023.; 1ex., 6. X. 2023.

<ムラサキアツバ亜科 >

- 218. ナミグルマアツバ *Anatatha lignea* 1ex., 7. VII. 2023.
- 219. ムラサキアツバ *Diomea cremata* 1ex., 5. VI . 2023.; 1ex., 23. VII . 2023.
- 220. マエヘリモンアツバ Diomea jankowskii 1ex., 11. IX . 2023.
- 221. マエジロアツバ *Hypostrotia cinerea* 1ex., 9. VI . 2023. ; 1ex., 28. VI . 2023. ; 2exs., 4. X . 2023.
- 222. ヒメエビイロアツバ *Maguda suffusa* 1ex., 2. Ⅷ. 2023.
- 223. シマアツバ *Hepatica linealis* 1ex., 19. VII. 2023.; 1ex., 16. VII. 2023.

<亜科所属不明>

224. フタキボシアツバ *Naarda maculifera*2exs., 22. Ⅵ . 2023. ; 1ex., 29. Ⅷ . 2023. ; 1ex., 6. Ⅸ . 2023.
< ミジンアツバ亜科 >

225. クロスジヒメアツバ Schrankia costaestrigalis 〇

226. ウスオビヒメアツバ *Schrankia masuii* 1ex., 27. IX . 2023.

<ホソコヤガ亜科>

227. マダラホソコヤガ Araeopteron fragmentum 1ex., 7. Ⅷ. 2023.

<ベニコヤガ亜科>

228. サザナミコヤガ Enispa masuii

1ex., 9. VI. 2023.

229. モモイロシマコヤガ *Corgatha costimacula* 1ex., 14. Ⅷ. 2023.; 1ex., 23. Ⅷ. 2023.

230. シロスジシマコヤガ Corgatha dictaria 1ex., 20. IX . 2023.

231. フタスジシマコヤガ *Corgatha marumoi* 1ex., 26. 2023.

<ベニスジアツバ亜科>

232. キンスジアツバ *Colobochyla salicalis* 1ex., 1. Ⅶ. 2023. ; 1ex., 17. Ⅶ. 2023. ; 1ex., 22. Ⅷ. 2023. <カギアツバ亜科 >

233. フタスジエグリアツバ *Gonepatica opalina* ○ 1ex., 21. Ⅵ. 2023.; 1ex., 14. Ⅶ. 2023.

234. ホソツマキリアツバ *Stenograpta stenoptera* 1 ♂ , 5. IX . 2023.

<ツマキリアツバ亜科>

235. マエモンツマキリアツバ *Pangrapta costinotata* 1ex., 18. VI . 2023. ; 1ex., 23. VI . 2023.

< クルマアツバ亜科 >

236. キマエアツバ *Adrapsa ablualis* 1 ♂, 24. VII. 2023.

237. シラナミクロアツバ *Adrapsa simplex* 1ex., 24. VII. 2023.

238. マルシラホシアツバ Edessena gentiusalis ○ 1 ♂, 9. VI . 2023.

239. ソトウスアツバ *Hadennia obliqua* 1 ♂, 29. VII. 2022.; 1 ♂, 19. VII. 2023.

240. フサキバアツバ *Mosopia sordidum* 1 ♂, 19. VII. 2023.; 1 ♂, 24. VII. 2023.

241. カギモンハナオイアツバ *Cidariplura signata* 1 ♂, 11. WI. 2023.

242. シロホシクロアツバ *Idia curvipalpis* 1ex., 7. VII . 2023.; 1ex., 19. VII . 2023.; 1ex., 16. VII . 2023.

243. シロスジアツバ *Bertula spacoalis* ○ 1ex., 12. VI . 2023.; 1 ♂ , 18. VI . 2023.; 1ex., 20. IX . 2023.

244. コブヒゲアツバ Zanclognatha lunalis 1 [♀], 4. 以 . 2023.

245. ヤクシマコブヒゲアツバ Zanclognatha yakushimalis 1 ♀, 9. Ⅵ . 2023.

246. シラナミアツバ Herminia innocens ○ 2exs., 17. Ⅶ. 2023.

<トモエガ亜科>

247. ハグルマトモエ *Spirama helicina* 1 ♂, 16. X . 2023.

248. オオトモエ *Erebus ephesperis* ○ 1ex., 13. Ⅵ . 2023.

<エグリバ亜科>

249. ハイイロオオエグリバ Calyptra albivirgata ○

1ex., 11. VI. 2023.; 1ex., 18. VI. 2023.

250. ヒメエグリバ *Oraesia emarginata* 1 ♂, 16. IX . 2023.

<シタバガ亜科>

251. キシタバ *Catocala patala* ○ 1 ♂, 3. Ⅷ. 2023.

252. アシブトクチバ *Parallelia stuposa* 1ex., 4. Ⅷ. 2023.; 1ex., 12. Ⅷ. 2023.; 1ex., 4. Ⅸ. 2023.

253. ムラサキアシブトクチバ *Bastilla maturata* 1ex., 9. VI . 2023.; 1ex., 19. VI . 2023.

254. コウンモンクチバ *Blasticorhinus unduligera* ○ 1ex., 19. Ⅶ . 2023.; 1ex., 1. Ⅷ . 2023.

255. シラフクチバ *Sypnoides picta* ○ 1 ♂ , 27. VI . 2023.

<ホソヤガ亜科>

256. ヤマトホソヤガ *Lophoptera hayesi* 1ex., 1. VI . 2023. ; 1ex., 11. IX . 2023. ; 1ex., 20. IX . 2023. 〈ホソヤガ亜科〉

257. フサヤガ Eutelia geyeri 〇

1 [♀] , 16. X . 2023.

<キンウワバ亜科>

258. ユミガタマダラウワバ Abrostola abrostolina 1ex., 17. VII. 2023.

259. ギンスジキンウワバ *Erythroplusia rutilifrons* 1ex., 27. VII. 2023.

260. ギンモンシロウワバ *Macdunnoughia purissima* 1ex., 22. VII. 2023.; 1ex., 12. IX. 2023.

<スジコヤガ亜科>

261. ネモンシロフコヤガ *Sugia idiostygia* 1 ♂, 23. VI. 2023.; 1ex., 16. VII. 2023.

262. アオスジコヤガ *Inabaia culta* 1ex., 5. IX . 2023.

263. モンキコヤガ Hyperstrotia flavipuncta 2exs., 12. VII. 2023.

264. ヨモギコヤガ *Phyllophila obliterata* 〇 2exs., 29. WI. 2023.

<アオイガ亜科>

265. フタトガリアオイガ *Xanthodes transversa* 1ex., 26. IX . 2023.

266. ヒメシロテンヤガ *Amyna axis* 1ex., 11. WI. 2023.

267. ウスサビイロヤガ *Amyna sugiorum* 1ex., 30. VII. 2023.; 1ex., 4. IX . 2023.

< ウスベリケンモン亜科 >

268. キバラケンモン *Trichosea champa* 1 ♀ , 5. X . 2023.

<ケンモンヤガ亜科>

269. シロシタケンモン Acronicta hercules

1ex., 16. VII . 2023.

270. シマケンモン Craniophora fasciata 〇 1ex., 20. VIII. 2023.

271. クロフケンモン *Cranionycta jankowski* 1ex., 22. VII. 2023.

<トラガ亜科>

272. ベニモントラガ Sarbanissa venusta 1ex. 28. VIII. 2023.

<ヒメヨトウ亜科>

273. アミメヒメヨトウ *Iambia transversa* 1ex., 14. VII. 2023.

<キノコヨトウ亜科>

274. ハイイロキノコヨトウ *Cryphia griseola* 1ex., 15. IX . 2023.

275. ウスアオキノコヨトウ *Stenoloba clara* 1ex., 22. VII. 2023.

<キリガ亜科>

276. ビロードキリガ *Anterastria atrata* 1ex., 15. IX . 2023.

277. ヒメウスグロヨトウ *Athetis lapidea* 1ex., 16. VIII. 2023.

278. シロスジアオヨトウ *Trachea atriplicis* 1ex., 2. VII. 2023.

279. シマキリガ *Cosmia achatina* 1 ♀ . 3. Ⅵ . 2023.

<ヨトウガ亜科>

280. カバフクロテンキヨトウ *Mythimna salebrosa* 1ex., 12. VI . 2023.

281. ウラギンキヨトウ *Mythimna hamifera* ○ 1 ♂, 15. IX . 2023. ; 1 ♂, 20. IX . 2023.

<モンヤガ亜科>

282. オオカバスジヤガ Sineugraphe oceanica ○ 1 ♀ , 22. Ⅵ . 2023.

以上 290 種と更新記録 (差し替え)7 種を報告する. 2020 年 11 月から 2023 年 10 月までに当地で確認で きた蛾は第 1 報、第 2 報と合わせて 1006 種となる.

考察:

1989~1997年と2020~2023年の蛾類相の変化

本項では上記の調査結果と,1989~1997年,つまり筆者の調査開始の31年前に開始され、調査終了の26年前に終了した高島 昭氏の調査結果(高島,1996:1998:1999:2001)を比較することにより、この間の 蛾類相の変化について考察する.

調査地の地形と環境

これまでにも触れているが、調査地である相生市立「羅漢の里」は 1985 年に相生市によって整備された公園で、千種川支流矢野川に注ぐ鍛冶屋川の谷沿い約800m(標高約80~110m)の範囲にキャンプ場、コテージ、研修施設、アスレチック (2023年に一部撤去)、田んぼの跡を利用したという直径30m程度の池と小さな2連の池等が設置されている。公園内の平地の幅は広い所でも60m程度で、両側には標高300~350mの山が迫り、最奥の駐車場の先は相生市の最高峰三濃山(509m)への登山道となっている。一方、公園の入口にあたる駐車場から下は民家と田畑が点在している。

表 1. 高島昭氏の調査状況(報文に記録のある日のみ)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
1989年	平成元年	-	-	-	-	3	5	1	-	-	-	-	-	9
1995 年	平成7年	-	-	2	2	-	1	-	-	-	-	-	-	5
1996年	平成8年	-	-	1	2	1	1	-	-	-	-	-	-	5
1997年	平成9年	-	1	2	3	3	1	3	2	2	-	-	-	17
合	ì l t	0	1	5	7	7	8	4	2	2	0	0	0	36

表 2. 筆者の調査状況

外灯ルッコ	トング	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
2020年	令和2年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	7	28
2021年	令和3年	10	25	30	22	22	14	10	8	13	16	22	24	216
2022 年	令和4年	29	23	27	22	11	19	20	22	14	16	26	22	251
2023年	令和5年	19	18	24	25	23	25	25	29	25	15	-	-	228
合計		58	66	81	69	56	58	55	59	52	47	69	53	723

ライトトラ	ップ併用	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
2020年	令和2年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
2021年	令和3年	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5
2022年	令和4年	1	1	1	1	-	-	-	2	2	-	2	-	10
2023 年	令和5年	1	3	7	4	4	2	3	4	3	2	-	-	33
合計		3	4	11	5	4	2	3	6	5	2	2	1	48

周囲の植生はアカマツ - モチツツジ群集で、山腹にはコナラ、谷底にはアラカシとスギの植林が多く、シリブカガシなども見られる。小低木ではウリハダカエデとニガイチゴが目立つが、コヤスノキ、コショウノキ、ヤマイバラ、フユザンショウなども確認できた。ナラ枯れは2022年夏に当地でも見られるようになり、2023年夏には被害が拡大している。

なお、当公園では整備終了以降に大規模な地形改変を伴う工事は行われていない。地元の方の話によると公園上流部で大規模太陽光発電所設置の計画が持ち上がったそうだがひとまずは免れたようだ。灯火環境も筆者が調査を開始した2020年時点ではそれほど大きく変わっていなかったが、2021年半ばから外灯のLED化や自動販売機の消灯が進行し、昆虫の集まる灯火は減少している。

A・B両期間の調査頻度・方法

表1は1989年~1997年(A期間とする)に行われた高島昭氏の調査状況で、ご本人に照会したが回答を得られなかったため、報文に記載された日付を筆者が抜き出してまとめたものである。8年間のうち、日付が記されている年は1989年と1995~97年の計4年で、時季は2月25日から9月25日の7か月間、総日数は36日となっている。ただしこれは報文に記載されている「成果ありの日」をまとめただけのものであり、採集記録に通常は初冬から年始頃に出現するウスグロフユハマキ、クロオビフユナミシャク、イチモジフユナミシャクが含まれていることからも、実際の調査日数はもっと多いのではないかと考えられる。

調査方法についても回答は得られていないが、報文に「適度な空間と光源にも恵まれており、少なからず蛾が飛来する」とあり、当時は昆虫の集まる外灯も多かったことから、外灯のルッキングによる調査が行われていたことが推測できる。なお、高島氏の調査が開始された時期に筆者は小学生で、調査期間を通じて度々現地を訪れていたことを書き添えておく。

表 2 は 2020 年 11 月 3 日~ 2023 年 10 月 20 日 (B 期間とする) の 36 か月間に行った筆者の調査状況である. 調査地が自宅から近い上, 蛾類にのめり込んでいく時期と重なったこともあり, 年間を通して可能な日は全て現地を訪れたことから調査の総日数は 723 日となっている.

筆者の調査方法は主に外灯のルッキングで、夜間の調査の際には欠かさず実施した. 初期は 10 か所程度、終盤は 4 か所の外灯を見回り、フユシャク類の活動期には疑木柵、看板、欄干等もルッキング対象に加えた. HID サーチライトと白幕を用いたライトトラップは他者

に充分配慮の上、期間中に 48 回実施しており、特に施設改修工事により灯火の数が激減した 2023 年春には回数が多くなっている。当地は谷間で見通しが悪いため筆者の機材にはそれほど適してはいないものの、これでのみ確認できた種も多い。また、2021 年 12 月から翌 4 月には時折糖蜜トラップも併用した。この年はナカオビアキナミシャク、ヘーネアオハガタヨトウ、カシワオビキリガ、シロヘリキリガなどがよく飛来したが、翌年同期には糖蜜の配合や設置場所が同じにも関わらず全くと言っていいほど成果が無かった。なお昼間の調査は合計10 回程度である。

種数の比較とその概要

表3はA・B両期間に報告された種数を比較したものである。A期間の報告総数は筆者集計で408種,B期間の報告総数は1006種で,両期間に共通する種が334種,A期間にのみ確認された種が74種,B期間にのみ確認された種が672種となっている。従って,1989年から2023年10月までに当地から報告されたことのある蛾類は1080種となる。なお,A期間に報告されたヨツボシホソバ Lithosia quadra はウンナンヨツボシホソバの国内分布が判明する以前の,ホシオビコケガ Aemene altaica は2種に分離される以前の記録であるが,便宜上現在のヨツボシホソバ Lithosia quadra,クシヒゲホシオビコケガ Aemene altaica と同一として扱うこととする。また,第2報で報告したフタヤマエダシャク,ナミスジチビヒメシャクはA・B両期間に共通する種だが,そのことを示す○を付せていなかったことを申し添える.

それぞれの詳細を見ると、両期間に共通する 334 種は A 期間に報告された総数の 81.9% を占め、高島で特記されているクロスジマダラミズメイガ、マエモンシロスジアオシャク、ウスミドリコバネナミシャク、マダラウスナミシャク、エゾヨツメ、ツクシアオリンガ、ヒメハナマガリアツバ、マイコトラガなどが健在であることを確認できた.

B期間にのみ確認できた種ではヒメウコンカギバ,ハラゲエダシャク,エグリトガリシャク,フリッツェホウジャクなど南方に分布の中心を持つ種が目を引くが,東日本に記録が多いチャオビトビモンエダシャク,セニジモンアツバなどや,本県では主に内陸部で記録されてきたオガサワラカギバ,カバイロモクメシャチホコ,ジョナスキシタバなども含まれている。また、全国的にも稀なヒメコミズメイガなどツトガ科ミズメイガ亜科も新たに8種(両期間に共通するものと合わせて11種)を確認でき、とりわけヒメマダラミズメイガの個体数は多かった。これらは幼虫が水生の種が多く、沢の水を引き込んだ浅い池や谷川を利用していると思われる。さらに

表 3. A・B 両期間に報告された種数の比較

	(1989年~ 1997年)	(2020年~2023年)	両期間に共通する種	A期間にのみ報告された種	B期間にのみ報告された種	増減(B-A)	種数合計
ヒゲナガガ科	1	3	0	1	3	2	4
ヒロズコガ科	0	10	0	0	10	10	10
ホソガ科	0	1	0	0	1	1	1
スガ科 クチブサガ科	0	3	0	0	3	3	3
ヒラタマルハキバガ科	0	3	0	0	3	3	3
オビマルハキバガ科	0	1	0	0	1	1	1
ヒロバキバガ科	0	1	0	0	1	1	1
マルハキバガ科	0	6	0	0	6	6	6
ヒゲナガキバガ科	0	11	0	0	11	11	11
ニセマイコガ科	0	2	0	0	2	2	2
ミツボシキバガ科	0	3	0	0	3	3	3
エグリキバガ科	0	1	0	0	1	1	1
カザリバガ科	0	3	0	0	3	3	3
キバガ科	0	12	0	0	12	12	12
イラガ科	5	12	4	1	8	7	13
マダラガ科	0	3	0	0	3	3	3
ボクトウガ科	1	2	1	0	1	1	2
ハマキガ科	10	55	9	1	46	45	56
トリバガ科	0	4	0	0	4	4	4
マドガ科	2	5	1	1	4	3	6
メイガ科	12	45	10	2	35	33	47
ツトガ科	25	86	18	7	68	61	93
小蛾類 小計	56	275	43	13	232	219	288
カギバガ科	16 2	26 2	15 2	1	11	10	27 2
アゲハモドキガ科 ツバメガ科	1	4	1	0	3	3	4
シャクガ科	140	245	115	25	130	105	270
エダシャク亜科	69	116	58	11	58	47	127
フユシャク亜科	1	6	1	0	5	5	6
ホソシャク亜科	0	1	0	0	1	1	1
アオシャク亜科	24	33	19	5	14	9	38
ヒメシャク亜科	13	30	12	1	18	17	31
ナミシャク亜科	33	59	25	8	34	26	67
カレハガ科	2	6	2	0	4	4	6
オビガ科	1	1	1	0	0	0	1
カイコガ科	0	2	0	0	2	2	2
ヤママユガ科	3	6	3	0	3	3	6
イボタガ科	1	1	1	0	0	0	1
スズメガ科	6	23	5	1	18	17	24
シャチホコガ科	20	39	18	2	21	19	41
ドクガ科	11	21	10	1	11	10	22
ヒトリガ科	22	41	19	3	22	19	44
コケガ亜科 ヒトリガ亜科	14	34 7	14 5	0	20	20	34 10
アツバモドキガ科	0	1	0	0	1	-1 1	10
1/ ノハモドギガ付	U		ı 0	U			

		(1989年~1997年)	(2020年~2023年)	両期間に共通する種	A期間にのみ報告された種	B期間にのみ報告された種	増減(B-A)	種数合計
ヤガ科		117	282	90	27	192	165	309
	テンクロアツバ亜科	0	3	0	0	3	3	3
	ムラサキアツバ亜科	2	12	2	0	10	10	12
	亜科所属不明	0	4	0	0	4	4	4
	ミジンアツバ亜科	1	4	1	0	3	3	4
	ホソコヤガ亜科	0	2	0	0	2	2	2
	ベニコヤガ亜科	3	17	3	0	14	14	17
	アツバ亜科	6	13	5	1	8	7	14
	ベニスジアツバ亜科	0	1	0	0	1	1	1
	カギアツバ亜科	9	16	8	1	8	7	17
	ツマキリアツバ亜科	4	4	3	1	1	0	5
	クルマアツバ亜科	16	37	13	3	24	21	40
	トモエガ亜科	2	5	1	1	4	3	6
	エグリバ亜科	7	10	7	0	3	3	10
	シタバガ亜科	13	23	10	3	13	10	26
	ホソヤガ亜科	0	1	0	0	1	1	1
	フサヤガ亜科	1	2	1	0	1	1	2
	キンウワバ亜科	1	5	0	1	5	4	6
	スジコヤガ亜科	7	13	3	4	10	6	17
	アオイガ亜科	1	5	1	0	4	4	5
	ナカジロシタバ亜科	1	1	1	0	0	0	1
	ウスベリケンモン亜科	1	3	1	0	2	2	3
	ケンモンヤガ亜科	5	10	5	0	5	5	10
	アミメケンモン亜科	1	1	1	0	0	0	1
	トラガ亜科	1	2	1	0	1	1	2
	カラスヨトウ亜科	1	3	1	0	2	2	3
	モクメキリガ亜科	0	3	0	0	3	3	3
	ヒメヨトウ亜科	1	8	1	0	7	7	8
	ツマキリヨトウ亜科	2	2	1	1	1	0	3
	キノコヨトウ亜科	1	6	1	0	5	5	6
	キリガ亜科	12	38	8	4	30	26	42
	ヨトウガ亜科	8	23	7	1	16	15	24
	モンヤガ亜科	10	5	4	6	1	-5	11
大蛾類 小	計	352	731	291	61	440	379	792
合 計		408	1006	334	74	672	598	1080

表 4. 大蛾類の幼虫の食性による比較

	総数 木本 草本		両方	その他	未知	
A 期間 (1989年~1997年) に報告された大蛾類の種数	352	243 (69.0%)	32 (9.1%)	29 (8.2%)	14 (4.0%)	34 (9.7%)
B 期間 (2020 年~ 2023 年) に報告された大蛾類の種数	731	453 (62.0%)	65 (8.9%)	51 (7.0%)	45 (6.2%)	117 (16.0%)
両期間に共通する大蛾類の種数	291	213 (73.2%)	17 (5.8%)	25 (8.6%)	12 (4.1%)	24 (8.2%)
A 期間にのみ報告された大蛾類の種数	61	30 (49.2%)	15 (24.6%)	4 (6.6%)	2 (3.3%)	10 (16.4%)
B期間にのみ報告された大蛾類の種数	440	240 (54.5%)	48 (10.9%)	26 (5.9%)	33 (7.5%)	93 (21.1%)
合計 (A + B)	792	483 (61.0%)	80 (10.1%)	55 (6.9%)	47 (5.9%)	127 (16.0%)

イラクサ科ヤブマオ属を食草とするキシタアツバ,タイワンキシタアツバの個体数も多く,A期間にも記録のあるクロキシタアツバとともに昼夜問わずよく観察できた.

A・B 両期間の全体を比較すると、調査頻度と調査時季の長さで大きく上回る B 期間の種数が圧倒的に多くなっており、科別で比較しても実質上限に達していたアゲハモドキガ科、1種1科のオビガ科、イボタガ科以外の全ての科で A 期間の種数を上回っている.

一方、A期間のみ確認され、B期間には見られなかった種には、ベニシタヒトリ、フタスジヒトリ、クロフシロヒトリ、クロクモヤガ、コウスチャヤガ、ウスイロアカフヤガ、キシタミドリヤガ、クロギシギシヤガ、カギモンヤガと、ヒトリガ科ヒトリガ亜科及びヤガ科モンヤガ亜科の種が目立っており、調査頻度がA期間と比して文字通り桁違いとなったB期間で種数が減少しているのはこの2亜科だけである。また、スジコヤガ亜科は種数ではB期間の方が多いものの、A期間に報告された7種のうちフタホシコヤガ、ニセシロマダラコヤガ、ニセシロフコヤガ、マエモンコヤガの4種を確認できず、種の入れ替わりが起こっている。

大蛾類の幼虫の食性による比較

表 4 は両期間に報告された種のうち、双方ともに報告数が多い大蛾類を「日本の蛾 (岸田, 2020)」及び「日本産蛾類標準図鑑 I II (岸田, 2011a; 2011b)」の寄主植物に関する記述に基づいて次の 5 グループに分類したものである.

- ① 木本のみ記載されている種 (木本の花や枯れ葉を含む)
- ② 草本のみ記載されている種 (ササ・タケ類を含む.草本とシダ植物の両方が記載された種もここに含めた)
- ③ 木本・草本の両方が記載されている種
- ④ シダ植物、地衣類、キノコなど木本,草本以外が記載されている種
- ⑤ 現時点で何を食べるか知られていない種

この中で草本のみ記載されている種は A 期間には 32種 (9.1%) が報告されており、そのうち 15種は A 期間のみにしか確認できなかった。 B 期間には種数は 65種と増えているが全体に占める割合は 8.9% とほぼ変わっていない。

公園内では現在,草本が衰退している。谷間地形のため草本は元々多くないとはいえ,A期間の初め頃にはまだ公園内の各所に残っていたと記憶している。しかし現在ではフェンスに囲まれた10m×50m程のビオトープ跡を除けば、鍛冶屋川の川原やキャンプ場の近くの池の周辺などでナガバヤブマオ,コアカソ、タンドボロギ

ク,シソの群生が見られるくらいで,下草はほぼ無く, 草花の植栽なども無い、その原因と考えられるニホンジ カについての当時の記憶は無いが、現在は非常に多く、 調査の際にその姿や音を見聞きしない日は稀であるし、 車道上に屯する群れを追い散らしながら駐車場に向かう ことも普通である. その影響を大きく受けていると思わ れるのがモンヤガ亜科で、B期間に確認できなかった6 種のうち草本のみ記載の種は4種、草本を中心に木本 も記載されている種が1種,未知の種が1種となって いる. また、高島は「草本を食する種が多いスズメガ科 やコヤガやウワバ類が少ない」と指摘しているが、現在 の分類におけるスジコヤガ亜科は前述のとおり顔ぶれが 大きく変わっているものの種数にそれほど大きな変動は 無いのに対し、スズメガ科はB期間に新たに18種を確 認でき、A期間に報告された種もコウチスズメ以外は全 て確認できた. しかしそのほとんどが木本のみが記載さ れた種で、草本のみの種はエビガラスズメとメンガタス ズメの2種に過ぎず、木本・草本の両方の種もシモフ リスズメとビロードスズメ, それにフジ, ハギ, ハリエ ンジュとともにクズが挙がっているトビイロスズメだけ で、草本食の種が大きく増加しているわけではない。た だしヒメシャク亜科やアツバ亜科, キンウワバ亜科, ヒ メヨトウ亜科など草本のみの種を新たに何種も確認でき たグループもあり、小型種を中心に公園内に残存する草 本や近隣の民家・農地周辺の草本を利用している様子が 垣間見える.

ヒトリガ亜科については、草本専食の種は元々ベニシタヒトリ1種しか記録されておらずB期間には確認できなかったが、代わりにシロヒトリが得られたことで草本専食の種数は変わっておらず、種数の減少と草本の減少を直接結びつけることはできなかった.

一方,木本・草本以外のものが記載された種はA期間には14種(4.0%)だったが,B期間では45種(6.2%)と増加しており,高島が多さを指摘しているヒトリガ科コケガ亜科に加えて,地衣類を食べるものが多いヤガ科ベニコヤガ亜科も種数・個体数ともに多くなった。

また、表では示せていないが、広葉樹の枯れ葉を食べるものが多いヤガ科クルマアツバ亜科も高島の指摘どおり種数・個体数ともに多かった.

まとめ

調査結果全体を見渡すと、少なくとも大蛾類に関しては高島で指摘されている「冷温帯の森林に優勢な種が少ない」、「常緑カシ類を食樹とする種類が個体数ともども多い」、草本を食する種が少なく「シャクガ、コケガ、クルマアツバの仲間が多いなど、谷間の森林地帯という採集地の環境を反映しているものと思われる」という当

地の蛾類相の特徴は約30年を経た現在でもあまり変化していないことが分かる。ただし細部に注目すると草本食の種の入れ替わりやヤブマオ属を食べる種の繁栄など、ニホンジカの影響が感じられる。また今回の調査で蛾類相の解像度を飛躍的に高められたことにより、上記に加えて、「浅い池や谷川を利用していると思われるミズメイガ亜科の種数が多い」、「晩秋から早春の蛾が豊か」といった特徴も併せ持つことを明らかにすることができた。

おわりに

末筆ではあるが、諸事ご指導くださった池田 大氏、八木 剛氏、同定でお世話になった阪上洸多氏、現地までご足労くださり植物についてご教示いただいた茂見節子氏、ご助言くださった久保弘幸氏、調査を許可してくださった「羅漢の里」公園の管理人様に感謝申し上げる。そして当地の蛾類の詳細な記録を残してくださった高島昭氏には最大限の感謝を申し上げる.

この公園がある兵庫県相生市は、古代から中世にかけてそのほぼ全域が矢野荘という荘園の領域で、例名の本家となった東寺はその膨大な記録を東寺百合文書(とうじひゃくごうもんじょ)の一部として現代に伝えている。そのため当地は大名(たいめい)から有徳人、凡下に至る数多の人々の動静や社会情勢をつぶさに知ることができる歴史学では非常に重要な場所となっている。継続的な調査と記録の蓄積によってこの地域が蛾類研究においても同様の場所になることを願いつつ、今回の報告を終えることとする。

参考文献

- 愛知県, 2020. レッドデーターブックあいち 2020 愛知県の絶滅の恐れのある野生生物 -, ヒメコミズメイガ, https://kankyojoho.pref.aichi.jp/rdb/pdf/animals/species/koncyu/%E3%83%92%E3%83%A1%E3%82%B3%E3%83%85F%E3%82%BA%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%82%AC.pdf (参照 2023 年 8 月 17 日)
- 池田 大・阪上洸多, 2020. 兵庫県のスズメガ. きべり はむし, 43(2):26-45.
- 金子岳夫, 2023. 日本産 Jodis 属 (シャクガ科アオシャク亜科) の 1 新種. 蛾類通信, 307:1-3.
- 岸田泰則(編), 2011a. 日本産蛾類標準図鑑 I, 352pp. 学習研究社.
- 岸田泰則(編), 2011b. 日本産蛾類標準図鑑Ⅱ, 416pp. 学習研究社.
- 岸田泰則, 2011c. 2種に分離された日本のヨツボシホ ソバ. 蛾類通信, 261:272.

- 岸田泰則, 2018. 日本のホシオビコケガについて 含む 1 新種の記載 -. 蛾類通信, 285:233-236. 岸田泰則, 2020. 日本の蛾. 200pp. 学研プラス.
- 高島 昭, 1996. 相生市三濃山麓の蛾 (1) 兵庫県産蛾類 分布資料・4. きべりはむし, 24 (1): 27 39.
- 高島 昭, 1998. 相生市三濃山麓の蛾 (2) 兵庫県産蛾類分 布調査資料・10. きべりはむし, 26 (2):59-64.
- 高島 昭, 1999. 兵庫県のシャチホコガ (1) 兵庫県産蛾 類分布資料・13. てんとうむし, 13:65-79.
- 高島 昭, 2001. 兵庫県のシャチホコガ (2) 兵庫県産蛾 類分布資料・21. てんとうむし, 14:61-76.
- 髙橋弘樹, 2022a. 相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録(1)-相生市三濃山麓の蛾 2020-2022-. きべりはむし, 45(2):41-51.
- 髙橋弘樹, 2022b. 2021年に西播磨地域で採集・ 撮影した注目すべき蛾類の記録. きべりはむし, 45(1):80-84.
- 高橋弘樹, 2023a. 相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録(2)-相生市三濃山麓の蛾 2020-2023-. きべりはむし, 46(1):1-12.
- 髙橋弘樹, 2023b. 佐用町昆虫館でオオツバメエダシャク, フリッツェホウジャクを採集. きべりはむし, 46(2):56.
- 那須義次・広渡俊哉・岸田泰則(編), 2013. 日本産蛾 類標準図鑑IV, 522pp. 学習研究社.
- 那須義次,2022. 日本のハマキガ2 ハラブトヒメハマキガ族,クラークヒメハマキガ族,トガリバヒメハマキガ族はおよびカギバヒメハマキガ族(鱗翅目,ハマキガ科,ヒメハマキガ亜科),88pp.日本蛾類学会.
- 宮野昭彦, 2011. ヨツボシホソバは 2 種の混合. 蛾類 通信, 261: 267 270.
- 宮野昭彦, 2013. ウンナンヨツボシホソバの分布資料. 蛾類通信, 266:394-396.
- 山口福男,2003. 諏訪山公園の蛾(続報). きべりはむ し,31(1):80.
- 渡辺和夫, 1997. 岡山県のシャチホコガ. すずむし, 131:51-72.